

神さまからもらった仕事

今この原稿を書いている5月29日は雨が降っています。関東甲信越はいつもより早く梅雨入りしたようです。雨の日は雨の音を聞きながら静かな気持ちになるので好きでした。3・11以降その雨の日が好きじゃなくなりました。放射能の雨かと思うと今までと感じ方が違っていました。3・11は多くの人にこれまでとは違う変化を与えられているのだと思います。



私にとっての決定的な変化が訪れたのは2005年5月でした。中米のグアテマラという小さなマヤの国に魅せられて、行き来すること20年の歳月がたちました。グアテマラはマヤ語で森という意味でもあるほど、熱帯林のすばらしい森がありました。古代マヤ人はそんな中にピラミッドを建て文明を作ってきました。昔の人は森のあらゆるものを使って森と共存していたと思います。

2005年、グアテマラ北部へ移動中、目の前で森が燃えているところに出逢いました。森は山火事ではなく、人為的に燃やされていました。それも肉牛にするための牧場を作るために、手っ取り早く燃やしているのです。そして、1か所ではなく、あちらこちらからもうもうと煙があがっていました。今まであった森が火に覆われて無残な姿になっていく様をみたときのことは今でも思い出すと悲しみがこみあげてきます。私はその時に森の声を聞いたのだと思います。「苦しい。助けてくれ。これ以上がまんできない。人間はどこまでおろかなことをするのか？我々は人間とともに何千年も生きてきた。それがこの頃人間のすることはおろかすぎる。人間中心に考えている。我々がなくなったら、人間のみで生きていくことはできないのに、どこまでもおろか。。このまま森がなくなれば、とても大きな地球上の宝をなくすことになる。。」

「まだ、間に合うでしょうか？森を助けることができるでしょうか？すべての森を失う前になんとかしなければ。。神さま私に力を貸してください。私には何も力はありませんが、森をなんとかしたいのです。どうすればいいでしょうか？」

答えはすぐにはきませんでした。絶望から立ち直り、できることからやっていくうちに希望がみえてきたのです。

希望はマヤナッツに出会ったことです。マヤナッツは古代マヤの人達が食べていたといわれる栄養バランスに優れた森に自生しているナッツです。

森に自生しているので、今ある森を守っていけば実はいくらでも捕れる。これを加工して流通にのせることができれば、森と共存しながら収入も仕事も得てみんなが幸せに暮らしていける！と思いました。

そんなことを思うようになって、しばらくしてマヤナッツを加工している現地の女性グループとの出会いがありました。出会った女性達と一緒に私もその一旦を担っていこうと決意し日本に市場をひらいていくことにしたのです。

日本ではだれも知らないマヤナッツの市場を作っていくこと決して簡単なことではないと思っていました。ビジネスとして成り立つのかとか何も考えずに始めましたし、ビジネスの経験も何もなかったのです。私にあるのは、森をなんとかしたい！という思いだけでした。これは、神さまが私に与えてくれた仕事だと思っていたの

グアテマヤ・大田 美保 (おおた みほ)

で、それなら助けがあると信じていました。

その通り、必要なときに必要な助けが与えられてなんとか今日まで生き延びています(今4年目ですが、去年から他のアルバイトなしで食べています)。これはほんとに奇跡だなと思っています。

最近起業をするという話がよく話題にのぼりますが何かに依存することなく、自分で仕事を作っていくのはこれからの時代必要なことだと思います。今起きている苦難や絶望的なところから自分の仕事を作っていくヒントであるのだと思います。そして、希望をもってあきらめないことで光がみえてくると思います。まだ、まだビジネスとして若輩ものの私がいうのもなんですが、経験としてそんな風に思います。



6Pから続く・・・

地球の反対側の人達との交流は、僕にもっと身近な人達との交流の場を提供してくれました。それから、先進国と途上国との間で行われていると思われていたアンフェアな取引は、ごく身近な場所でも行われているということを知りました。また、山口県の上関町にある祝島で、インタグの人達と同じように、自分達の周りに広がる豊かな自然を、後世に伝えたいと願い活動する人たちがいることも知りました。その驚きと感動が、今に至るまで僕がエクアドルのコーヒーに関わりを持ち、コーヒーを通じて色んな人とつながりを作るきっかけとなっています。もしも、祝島の人達の活動を知ることが無ければ、彼らの思いを知ることが無ければ、僕はインタグでの経験を、日本人達や環境と結び付けて語る気持ちを失っていたかもしれません。

人と自然のつながりのお話を、ここで足掛け3年にわたり連載させていただき、その間にも様々なご縁をいただきました。9回にわたる長いお話しにお付き合い下さった皆様、本当にありがとうございます。



カプヤ編み

会員エッセー

山口からの便り

原 真紀 (はら まき)

山口県周南市に住むはらまきです。主人と結婚して「原」という姓になったことで、一層自分の名前に親しみが持てるように、なりました。私の家族は、主人・原康司(こうじ)と息子・海惶(かいせい・4月で3歳になります)の3人で暮らしています。

私たちは、周南市で、「DAIDUK(ダイドック)」という屋号で、アウトドアショップのお店を2002年から開き、シーカヤックツアーの開催、2007年からは「ダイドック冒険学校」を主催しています。

お豆さんたちとの出会い

楽天堂さんとの出会いは、隣町(下松市)のお友達吉岡すみれさんに紹介していただいたことがきっかけでした。すみれさんは、「ヤッカ」という雑貨や食品を扱うお店をお母様とされて、そこでの、豆ランチパーティーに参加しました。あまりに初めてお会いする方が多く、自己紹介はしたけど、誰が誰かなかなか覚えられなくて、でも、豆とお野菜なだけに、いただいた料理がとてもおいしかったことは、覚えています。千晶さんとの出会いもこのパーティーでした。

それから、「お豆さんって、すごいんだ〜」と関心が膨らみ、同時に自分の料理のレパートリーも増やせるから、ということで、豆料理キットをお店で見つける度に購入して、我が家の食卓を賑わしていただいております。

中でも好きなのが、みなさんもご存じの「スプリットピーとひじきのサラダ」です。大好きな祝島のひじきと一緒に、こんなにもおいしくいただけるなんて〜。と感激しております。主人が、シーカヤックのツアーで、食事を用意することもあるので、このサラダを前日から作っておいて、よくランチに使ってもらいます。ひじきは、「煮物」というお客様からも「おいしい〜」「こんな食べ方もあるんだ〜」と喜んでいただいております。

ひよこ豆や黒目豆のカレー、地中海風バスタソースも人気なので、常連のお客様にいつもと違うお料理を食べていただきたい時に 助けてもらっております。

祝島との出会い

主人と出会って、平生町のお隣上関町祝島のみなさんともお話しする機会が増えました。そして、少しずつ上関原子力発電所の計画問題は、自分の問題だと思ふようになりました。自分たちが口にするもの、息をする空気、住んでいる場所、飲む水、生きるということ全てに直結していると感じ始めました。

ご存知の方も多いと思いますが、山口県熊毛郡上関町田ノ浦に原子力発電所の建設計画が浮上して、祝島のみなさんは、人口の9割の方が、建設に反対されています。「原子力発電所は、危険だ。私たちは、補償金よりも安全で安心な暮らしがしたい」と声を上げて、今年6月で、30年を迎えます。現在も原子力発電所の建設阻止行動を続けていらっやいます。

私が初めて祝島を訪れたのは、祝島不老長寿マラソン大会でした(現在は、開催されていません)。その時に、初めてだったのに、なんだか故郷以上に、くつろがせていただきました。素の自分で居られる場所だなあと感じました。

島のみなさん、一人一人が主人公で、笑顔が素敵な方ばかりでした。「どっから来たの?暑いからね、ゆっくりしんさい

よ。」と温かい声もかけていただきました。走っている時も、「がんばれ〜ほ〜れぬかれるど〜」などとしっかり応援もしてもらいました。

そんな祝島のみなさんを少しでも応援したいと思い、お店の方で、びわ茶、寒干し大根、てんぐさ、干しタコの足などを販売させてもらってます。ツアーで、県内外からいらっやったお客様に、ちょっとした山口土産としてもアピールさせていただいてます。

現地のことに 多くの方が関心を寄せて、自分にできることを考えて、動いていけば、この計画は、止まります。白紙に戻して、自然豊かな海と山を次世代に残したいです。

祝島!帽子であったかプロジェクト



温暖な瀬戸内海も海風は、冬の寒さを一層厳しくします。毎年、家族に毛糸の帽子を編んでいる私ですが、今年は、寒い季節に少しでも暖かく過ごしてもらおうと上関町祝島での原子力発電所建設の阻止行動を続けられているみなさんへお届けする

ことにしました。一人では、編める数も少ないし、同じ思いの方がいらっやると思うよと友人の助言もあり、ネットなどで呼び掛けることにしました。

20日間という短い期間でしたが、全国あちこちからおよそ50個の帽子が暖かい言葉と一緒に私の元へ届きました。1月31日の祝島島内デモの際に、島の婦人会長さんへ手渡しました。みなさんに喜んでいただけて良かったです。色とりどりの帽子たちが、島の方の笑顔と一緒にありますように。

また、翌日2月1日は、ひじき取り開始の日、夜中に取ったひじきを鉄釜で4時間炊き、蒸した物をお土産にいただきました。生ひじきの取れたて!釜から少し湯気が上がっている所を一つまみ食べさせてもらいました。海の恵み、おいしかった。

チェルノブイリ25周年・原発なしで暮らしたい100万人アクションinヒロシマ

4月24日と26日に広島市内で開催されたライブ・スピーチ・ピースウォーク・キャンドルナイトが行われ、26日へ参加しました。写真は、26日広島市の原爆ドーム前にてウォークのスタート直前の集会の様子です。報道写真家の福島菊次郎さんからもスピーチがありました。24日1500人、26日800人が集結し、ウォークは、それぞれが伝えたいメッセージを掲げて、広島市内を楽しく練り歩きました。コースは、経済産業省 中国経済産業局~広島県庁~広島市役所~中国電力本社、約3km私は、3歳の息子を台車に乗せて歩きました。4か所それぞれに代表者が、申入れを行いました。

お母さんたちも声をあげます!

4月27日、山口県庁前に親子約百人が集合。福島第一原子力発電所の事故で募る不安を山口県へ「未来につながる生命(いのち)を育てる会」が山口県・広島県在住の子育て中の母親、16歳以上の女性から3679人と県内14の女性団体から賛同を得て、申入れを行いました。